

日本の名湯(二) 乳頭温泉郷(秋田県)-ブナの森の「秘湯」で七種類の泉質を体験

日本には現在、宿泊施設を備えた温泉地が約 3000。その中には、前回紹介した白浜温泉、別府温泉郷(大分県)や熱海温泉(静岡県)のように大型温泉ホテルなど宿泊施設が 100 軒以上建ち並ぶ賑やかな観光温泉地もあれば、それと対照的に地方の山間部には温泉宿が 1 軒、ひっそりたたずむ風情の自然豊かな「秘湯」系温泉地も少なくない。

日本の高度成長時代(1955 年～1970 年代前半)が終わり、次のいわゆるバブル景気がはじけた 1992 年以降、旅行のあり方や温泉ニーズに大きな変化が生じた。

まず温泉旅行客の主体が、会社の社員旅行や団体旅行から個人・家族グループ客へ、男性から女性客中心に変わっていった。これまでなら、温泉地に出かけても宴会やカラオケ、夜の温泉街飲み歩きなどが主体で、「温泉」というだけで満足し、温泉の質・提供状況など気にもしなかった。それが個人客・女性客中心となってからは、日常の仕事やストレスから解放され、大都市の喧噪を離れて、心身が安らぎ癒される自然環境に恵まれた温泉地に出かけることが旅行の目的となり、温泉そのものにもこだわるようになった。こうした温泉旅行客とニーズの変化を背景に、自然も温泉も豊かな秘湯ブームが起きた。その秘湯のなかでも、温泉好きな人たち憧れの温泉地が乳頭(Nyuto)温泉郷である。



休暇村乳頭温泉郷の露天風呂(以下提供：石川)

乳頭温泉郷は、日本でもひととき自然環境や温泉資源に恵まれた東北地方の秋田県にある。東京から秋田新幹線で最寄り駅の田沢湖(Tazawako)駅まで約 2 時間 50 分。田沢湖駅からバスで 40 分。水深 423m と日本一深く神秘的な瑠璃色をたたえた田沢湖を眼下に見ながら、秋田駒ヶ岳(標高 1637m)と乳頭山(標高 1478m)の西側山麓を覆うブナの森に分け入っていく。この森の中に点在する鶴の湯(Tsurunoyu)、妙乃湯(Taenoyu)、大釜(Ohgama)、蟹場(Ganiba)、孫六(Magoroku)、黒湯(Kuroyu)、休暇村(Kyukamura)乳頭温泉郷の 7 つの一軒宿で構成されるのが乳頭温泉郷で、十和田八幡平国立公園内に含まれている。

乳頭温泉郷の7つの自家源泉一軒宿のうち、乳頭温泉郷の玄関口となる休暇村乳頭温泉郷だけが鉄筋3階建てバリアフリーの公営温泉宿で、他の6軒はすべて民間経営の木造和風旅館である。なかでも黒湯、孫六、鶴の湯の各温泉は、長期滞在して温泉療養する自炊湯治客が主だった時代からの伝統的な「湯治場」景観を保っている。



鶴の湯の茅葺き本陣長屋

乳頭温泉郷は山奥の素朴な湯治場であったため、歴史は古くまでさかのぼれないが、17世紀前期の江戸時代には温泉の評判を聞きつけた秋田藩主が鶴の湯に湯治に訪れた記録があるという。その当時、藩主を警護する武士が詰めたのが、鶴の湯の茅葺屋根の長屋「本陣」で、今は補修されて宿泊できる。室内には囲炉裏があり、囲炉裏を囲みながら新鮮なキノコや山菜、肉など盛り沢山の郷土料理「山の芋鍋」を賞味できる。

乳頭温泉郷の良さは、秘湯ブームが到来して観光客がたくさん訪れるようになって、公営宿を除く6つの木造旅館は規模を拡大せず、昔懐かしい日本の田舎の旅館の風情を保ち、宿泊料金や日帰り入浴料金をととてもリーズナブルな値段に抑えていることだ。これは7つの宿で乳頭温泉組合をつくって、温泉資源を守り、宿泊客が他の宿を巡って泉質や個性が異なる温泉と露天風呂を体験できるように「湯巡り帖」を発行し、巡回バスを運行するなど互いに協力し合っているからである。湯巡り帖の販売収益は、巡回バスの運行経費や温泉郷の環境保全に使われる。SDGsにもふさわしい温泉郷である。



鶴の湯の乳白色の足元自然湧出露天風呂

乳頭温泉郷人気を支えるのは、何と言っても温泉そのものの素晴らしさである。

温泉を主管する環境省の『鉱泉分析法指針(2014年改訂)』による鉱泉(温泉)の分類では、温泉の泉質は10種類に大分類される。その内7種類の泉質がこの小さな乳頭温泉郷にそろい、温泉客はその個性・特色を十分に体感できる。日本でもこれだけ多様な泉質が一つの温泉地(郷)にそろっているのは、九州の別府温泉郷と霧島温泉郷、北海道の登別温泉など極めて限られる。

乳頭温泉郷の泉質は、硫黄泉、pH3未満の酸性泉、含鉄泉、塩化物泉、硫酸塩泉、炭酸水素塩泉、単純温泉の7種類。泉質の多様性に伴い、湯の色も乳白色から青白色、黄白色、赤色、淡緑色、無色透明と多彩である。湯の香も、温泉らしい硫化水素香から鉱物香、無臭とさまざま。それぞれ個性を発揮する温泉が、温泉も人も「十人(湯)十色」。それぞれ個性・持ち味があって良い、とあらためて思い知らされてくれるのだ。



鉄分を含み赤色を呈する妙乃湯の露天風呂

さらに乳頭温泉郷の温泉が卓越しているのは、公営温泉宿「休暇村乳頭温泉郷」の2種類の源泉(唯一の掘削泉の炭酸水素塩泉と噴気造成泉の硫黄泉)を除き、昔からある6つの温泉宿はすべて自然湧出の自家源泉を提供していることである。ボーリング(掘削)と動力揚湯による温泉が全体の75%を占める今日、本来の自然湧出泉は本当に希少・貴重な存在となった。これも秘湯ゆえの魅力である。

乳頭温泉郷では、先の湯巡り帖を購入して7つの温泉巡りを楽しむ。7つの温泉はそれぞれ露天風呂や内湯、貸切湯、伝統的な打たせ湯などがあって味わい深い。男女の出入りを別にした混浴露天風呂もあって、カップルに人気だ。

内湯や露天風呂の造りも多彩だ。とくに露天風呂からは周囲の自然景観を満喫できる。休暇村の露天風呂のようにブナの純林に囲まれていたり、孫六温泉や蟹場温泉では溪流脇に湯小屋や露天風呂を設けている。黒湯では、噴気を上げて熱泉が湧く泉源近くに男女別の内湯の湯小屋、露天風呂や打たせ湯がある。日常生活環境とはまったく異なる景観と情緒、際立つ温泉体験が、非日常の解放感を生む。疲れやストレスも吹き飛んでしまう。

乳頭温泉郷は東北地方北部の山間部にあり、冬は雪深い。雪景色を眺めて入る露天風呂。湯布団に包まれているような快感から、出たくなくなる気持ちがよくわかる。



蟹場温泉の雪見の露天風呂

文 石川理夫

【温泉地 DATA】

- ・所在地：秋田県仙北市
- ・アクセス：秋田新幹線田沢湖駅からバスで40分
- ・泉質：7種類(本文掲載)
- ・泉温/pH：30～86℃/pH2.5～8.1
- ・源泉数/湧出量/湧出形態：16本/毎分約1600L/自然湧出・噴気造成・動力揚湯
- ・宿泊・温泉入浴施設：7軒
- ・照会先：乳頭温泉組合 TEL0187-46-2244